

平成30年4月16日

知事公室

第4回くまもと復旧・復興有識者会議の概要について

平成30年4月15日に開催しました標記会議において、有識者の方々から、これまでの震災対応や今後の復興に向けた取組みについて、貴重な御意見をいただきました。

その概要と主な意見については、以下のとおりです。

【概要】

- 震災から2年が経過し、重点10項目に掲げる施策をはじめ、熊本の復旧・復興は順調に進捗している。
一方で、いまだ仮設住宅等で生活されている方々の住まいの再建といった喫緊の課題や、阿蘇へのアクセス道路の回復、熊本城の復旧など中・長期的な課題も残されており、引き続き、「創造的復興」の理念のもとに取組みを進めて欲しい。
- 熊本の更なる発展に向けた創造的復興においては、産業の振興が不可欠であり、点から線、線から面に発展させることが重要である。食産業をターゲットとした農産物の輸出や、空港ネットワークを活用した新産業の創造を、民間と連携して進めて欲しい。
- 震災対応の記録のアーカイブ化や震災ミュージアムについては、震災の記録や教訓を全国に、そして次の世代に伝えていくことが重要である。

【各委員の主な発言】

- 金本委員
阿蘇くまもと空港はコンセッション方式で再建を進められているが、民間にすべて任せるとはならず、民間とどう連携していくか、県としての役割を果たすことが大事である。
- 河田委員
阪神・淡路大震災の被災地である神戸市は、現在、医療産業クラスターの取組みにより経済が伸びている。空港を媒介にしたネットワークを考えてはどうか。また、食産業が重要。熊本の豊かな農産物を世界の都市に届けるといったことが考えられる。
- 古城委員
震災対応の記録のアーカイブ化や、震災ミュージアムの取組みは大切だと思う。うまくいった点だけでなく、何が課題となったか、どうクリアしたかも他地域に発信して欲しい。
- 谷口委員
産業の振興においては、点から線、線から面に発展させることが重要。交通機能など産業集積地に有利な点も十分に活かしながら、熊本をシリコンバレーにするといった構想も期待できる。
- 五百旗頭座長
有識者の皆様から、非常にするどい意見をいただいた。中でも、熊本の更なる発展につながる産業振興については、熊本の資源を活かし、全国、そして世界に挑戦することを真剣に検討してもいいのではないか。
デジタルアーカイブや震災ミュージアムについては、防災教育や交流人口の拡大にも寄与できるよう、新潟県や兵庫県の自治体の事例も参考にしながら、研究機関との連携も進めて欲しい。